

未来の長浜市を創造するまちづくり委員会

教育・文化分科会 議事録

日時	平成21年 7月 3日(金) 13:30 ~ 15:30
場所	高月町役場 D会議室(4階)
議題	少子化にともなう学校施設の統廃合上の問題点・あり方について
出席者	寺村正和委員、林多恵子会長、脇阪宏一委員、小竹佐代子委員、佐金利幸委員、藤井繁副会長、竹本直隆委員、服部貴美代委員、西田清信委員、竹端康二委員
市	分科会事務局 (伊藤・辻) まちづくり委員会事務局 (武田) 長浜市教育委員会事務局 前田理事(教育指導担当)
6町	西阪教育長(高月町)
傍聴者	下坂幸正会長、西村和洋副会長、
報道機関	なし

【協議結果】

- ① テーマの絞り込みについて
 - ・ 次回のテーマは、「人権について」に決定
- ② 次回の日程
 - ・ 期 日 8月27日(木) 13:30~(後日9月4日に変更)
 - ・ 開催場所 木之本町役場
 - ・ テーマ 「人権について」

【主な意見】 (要点列記)

- 会 長 「少子化に伴う学校施設の統廃合上の問題点・あり方について」(地域文化の継承も念頭に置いて)の議論をお願いします。
- A委員 西浅井町には、小学校が永原・塩津の2校、中学校は1校ある。統合すれば、バス通学になる。今は徒歩通学のため足が強いが、統合することによりバス利用となり体力的に劣ってくるかもしれない。今後も25~30人のクラスになるので、一つに統合することは、地域のことを考えればもったいない。学力的なことだけでなく、体力的なことやいろいろなことから、1つのところに集中することはどうか。今が適正と判断している。
- B委員 余呉町では高齢化と少子化が一番進行している。小学校も中学校も統合が出来ている。1Km以内は徒歩で1Km以上はバス。歩いている子どもの方が体力はあるが、集中化するとバスになるため、健康面を考えると体力が落ちることを指摘したい。
- もう一点は、少子化が進んでいるといっても、池原ではUターンによって5

- 家族増えた。以前の高齢化率65%が半減して23%程度になってきた。子どもが増えて、地域ぐるみで「ホタルの観察隊」等を組織し活動しているが、子どもが喜んで参加し、大人から子どもまでの地域イベントも実施している。
- C委員 事務局にお願いしたい。前回会議でお願いした小学校の学年別の児童数の資料はいただいたが、次回会議に1市6町の幼稚園と保育園の年長・年中・年少の人数の資料をいただきたい。学校の統廃合の前提になるのは、今の小中学生でなく、今後の出生率や幼稚園、保育園の人数である。
- 事務局 現在の少子化問題が、学校の統廃合に影響してくると思われるので、昨年度の出生率の実績も併せていただきたい。
- 事務局 もう一点は長浜市から新規事業をやるなど指示があったが、12月31日までは6町は自治権を持っている。小中学校の耐震事業は国、県、地元含めてやらなければならない優先した事業と理解している。耐震事業まで新規事業と言うのは、どのような観点から6町側に指示されたのかわからない。安心・安全の部分は新規事業と言う観点でなく、緊急的な措置として認めていただきたい。通知文書は長浜市総務部長名で各町総務課長に出ている。合併後の新市財政計画に大きく影響することが懸念される場合があるので、大きな事業については関係課と財務課に事前に十分協議を行い、事業の選択をしてほしいという内容だ。
- 事務局 耐震化は各学校の施設の状況を各町の担当者から聞いている。耐震化は平成23年度までの時限立法の中で行うことは有効な整備の方法と判断しており、安心・安全の観点から必要と認識している。ただ事業の中には、大きな規模の事業もあるように見受けられる。
- 会長 C委員 市全体で調整協議を行い、最終的に長浜市議会で審議がなされご判断される。今後具体的な調整作業が出てくると思う。
- C委員 耐震事業はきちんと実施すべきものと思われる。
- 会長 C委員 虎姫町も幼保一元化を考えている。長浜市の新規事業についてはどの辺までか。教育施策において、大規模、中規模、小規模の線引きができるのかと思う。地域的なこともあり、考慮してほしい。
- 会長 事務局 1市6町教育長会議は始まっていますか。
- 事務局 長浜市の新しい教育長も選任されたので、その後会議を開いている。本日も会議が行われ合併にともなう課題等が審議された。今月23日に合併調整項目について会議が開催されるなど、今後継続的に協議の場がもたれる。
- D委員 少子高齢化の言葉は聞いていたが、このような数字を見たのは初めてで驚いている。事務局にお願いしたい、資料は数字だけではわかりにくく画像等使い、パワーポイントによるグラフで説明してほしい。
- 事務局 資料を見て認識を新たにしている。教育分科会で統廃合が論じられるが、将来、まちづくりで動く可能性が大なのか。ここで論議するだけでなく、これをたたき台として将来、10年・20年後の統廃合を考えておられるのか。地域の住民の方の思い出もあるので、簡単に統廃合をされては困るという意見を聞いた。事務的に考えれば、子どもの数が減れば、小学校・中学校を少なくしなければならないが、簡単に統廃合してよいのか、根が深い。
- E委員 少子化に対応するためには、スクールバスが必要と思う。学校を閉鎖するという結論に達するまでに、子どもたちを生徒が沢山いる所へ連れて行ってあげることが最優先。新しい建物を建てる、建てないかは、耐震性のこともあるが、よくよく考えればよいと思う。子どものことを考え、スクールバスを利用し、迅速に対応してあげることが必要。
- 事務局 少子化は地場産業や企業誘致などで総合的に上手くいくことで、子どもたちが外へ出て行かないで残ってくれる。市などで優良企業の誘致等総合的に考えてほしい。そして、それが、将来子どものためにどうなるか考えてほしい。

	<p>私が住んでいる地域は子どもの数が増えている。子どものために新しい家を建てるなど努力をされており、総合的なことで将来子どもたちがここに残れるビジョンを私たちに教えてほしい。そうすると、子どもたちがUターンしてくると思う。</p>
F委員	<p>少子化問題は、若い方が都会へ就職し地元に住まない。これが大きな原因。若い人が地元に住める環境づくりが一番大切と思う。学校の統廃合問題は、6町視察時に、地元を大切にしたいという地域性にこだわる意見が多かった。学校をなくして、他の学校へ子どもをやる判断がしにくいと言っておられた。今後、子どもたちのためにどうしてあげるか。競争心をつけるためには、最低でも200人から300人の生徒の学校がいいと考えるが、その観点からも統廃合は近い将来行っていかなくてはならない。</p>
G委員	<p>耐震性は文科省の指導で早急に対応しなければならない。統廃合は、地域性が強いと実感している。どう克服して進めるかが大切と思う。</p> <p>私は、地域文化の継承に関わって、平成12年頃から女性グループの活動を行っている。外に出ている子どもたちも帰ってきて、地域の事業に参加してくれた。一時的なUターンではあるが、合併をしてからも、協力をいただけるとありがたい。</p>
H委員	<p>少子化問題は各町大きな問題として抱えられている。小規模な学校のため、統合して他の学校へ通うというのは少し短絡的だ。これからのまちづくりは、小さな学校でも地域が活性化できれば、必ずしも大きな学校に統合する必要はない。地域でがんばる意欲をもてば、子どもたちの学力、体力も劣ることはないと思う。</p> <p>地域住民や、教育行政がバックアップできれば、維持向上できる。とことんやってみてからの統合なら、やむを得ないと思う。</p>
I委員	<p>現長浜市では1年程前から「長浜市校園の適正規模・適正配置について」（答申）が出ている。別添資料13ページ以降でまとめているので参考に。5～6ページには大規模校、小規模校のメリット、デメリットが載っている。</p> <p>実社会に出た時、子どもたちは切磋琢磨しなくてはならないが、伸びる子の芽を摘んでしまっていないか。1クラス10人前後の子どもたちを放置しておくことはできない。子どもたちは日に日に成長している。大人の思いだけでいいのか。子どもを犠牲にはしてはいけない。一番いい方法を見いだしてやることが望ましい。</p>
会長 教育長 会長	<p>統廃合の関連から高月の「高月学園構想」の説明をお願いしたい。 （別添資料「高月学園構想」により説明）</p> <p>「高月学園構想」の説明であったように、長浜市でもびわ地域で新しい小中一環教育実践校としての取組みを始めたが、すべて予算が伴うもので、新しい長浜市で十分考え、全体的なものとして進めることが大事である。</p> <p>別添資料の「長浜市立校園の適正規模・適正配置について」（答申）について、長浜市教育委員会より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>（別添資料「長浜市立校園の適正規模・適正配置について」（答申）の説明）</p> <p>現在、長浜市では、幼稚園区の見直しを行っており、4つの園を2つの園に統合するため、地元関係者と協議を行っており、前向きに考えていただいている。</p>
会長	<p>これで議論を集結していきたい。</p> <p>答申を基礎として、各町の問題点、考えの違いや、地域性も大事にしながら、新教育システムのことを含めて、今後考えていかなくてはならない問題である。</p> <p>前田理事より参考意見があれば、お願いします。</p>
担当課	<p>教育内容の指導に当たっている観点から話をします。少人数には少人数のよさがある。学習場面によって学習形態を変えることは効果があり、ある分野では小人数がよい。しかし、ある分野では多い人数の方がよいと言うデータも出て</p>

	<p>いる。固定化してしまうと児童・生徒に体験ができなくなる。学び合う、切磋琢磨する場がなくなる。それを施策で解決していくかなど、どうするかを考えていかななくてはならない。</p>
会 長	<p>合併を期に考えていかななくてはならない。</p>
I 委員	<p>私が新卒で勤めた学校はへき地であった。校長から学校の子どもたちに社会性をつけてやってほしいと言われた。中学校は教科制であるがその学校では主要5教科の先生が揃わないことがあった。</p> <p>複数の教科をもつと学校の先生も大変である。子どもたちに力がついていかず、子どもたちの入学試験にも影響する。例えば、杉野中学校は全校で9人だがこれを放置しておいてよいのか。いろんな場面に出れば伸びる子どもがいる。その子の芽を摘んでいないか。</p> <p>切磋琢磨させ、体験の場を与えて伸びる子がいる、大人が芽を摘んでいないか、考えていかななくてはならない。</p>
C 委員	<p>前田理事にお聞きしたい。「高月学園構想」は長浜市答申の「適正規模・適正配置」とかなり違う所が相当ある。高月は住民に推進すると言ったら1月1日以降どうなるのか。以前に教育委員会に聞いたが、すべて教育の事業内容等々長浜の事業形態に6町は従ってもらうとのこと。その中で英語教育は4月から実施できないと聞いている。先生の確保が出来ず、わが町は9月からになる。</p> <p>高月町の6年生等の集合学習は独自の事業を掲げているが、高月町は長浜市の教育事業内容と別に独自の事業内容を推進されていかれると理解してよろしいか。</p>
担当課	<p>「高月学園構想」は、長浜市の施策と相違う部分がある。合併協議の事務事業調整の中で教育内容を協議している。基準としては長浜市の教育制度、長浜市の基準に合わせて、地域の独自性や各町の歴史を担保しつつ、どのようにして、長浜市として一元化していくか。制度の部分では、教育特区で位置づけされている。</p> <p>長浜は英語だけで、こちらは英語プラス。教育内容の面からも考えていかななくてはならない。独自制として認めていくのが今後の課題。</p> <p>施設面については、今後、検討していかななくてはならないと思う。大きな制度なので今後、最終協議をしていかななくてはならない。</p>
I 委員	<p>昨日、高月町の視察で高月町からこの事業について説明を受けた。その中で予算が50億を超え、計画が立てられていると聞いてびっくりしたことが一つである。</p> <p>もう一つは、昨日全町調査をしたという用紙をもらった。それを見て疑問があった。小中一環教育について、6・3制の調査をしておられる。「早急に取組むのがよい」20%、「必要に応じて取組むのがよい」48%、「現時点では取組む必要ない」24%で、「必要に応じて」と「必要ない」を合算すると75%。この状況でこの事業を取組もうとされているのを知って、びっくりした。</p> <p>町民の十分な理解があるのか。50億必要で10億の蓄えがある。あとは、長浜市と合併したらよろしくお願ひしたいと、昨日私は聞いた。</p> <p>これについては、十分な論議が必要でなかろうか。そうでないと、ここに参集している者も、また1市6町の議員や関係者が、後々どういふ事かと市民から突き上げがあるだろう。</p>
会 長	<p>もう少し議論していかななくてはならない。教育委員会を中心として議論をお願いしたい。では、地域文化の継承について、一言ずつお願いします。</p>
A 委員	<p>地域活動への支援が、合併すると予算カットのため、なくなると聞いている。そうすると、活動ができなくなることも想定される。銭勘定だけで、物事を進める考え方はどうかと思う。地域文化を進める中でマイナスになる。</p>
F 委員	<p>湖北は文化財が多く存在し、維持していかななくてはならない。文化によって地</p>

	<p>域が豊になると考える。祭りは地域の人々との結びつきを深めることができる。子どもたちも祭りに携われるように、子ども御輿を造った。文化を教育とつなぎ合わせて進めていく。</p>
B委員	<p>文化はボランティア面が多く、予算がこれだけついたから実施するといったものではない。余呉町では「はごろもホール」で子どものコーラス隊を行っている。地域の特性ある文化活動をしっかり地域に残してほしい。その方面に対しても長浜市も見つめてほしい。</p>
I委員	<p>文科省の全国一斉学力テストで、ここ2～3年の上位は秋田県・福井県であったと思うが、調べて見るとその背景には、親子3世帯の家族が多いと新聞や専門雑誌に書かれていた。また、秋田県・福井県とも地域行事が多く、地域の行事に子どもたちがみんな参加している。そこで大人たちから学び、自分も知恵を出し、色々な創意工夫が生まれてくる。そのことが、学校で生きてくる。</p> <p>生きる喜びが学力や人格において現れてくると書かれていた。地域が大切にしてきた文化をこれからも援助していただける所は援助していただきながら、子どもたちを参加させて、育ててもらいたい。</p>
G委員	<p>8人がグループを作り、行政に協力してもらい地産・地消ではなく、私たちは「自産・自消」を目指している。自分たちの作った野菜で行事の取組みをやっているが、行政の企画で、都会の方に見学に来てもらったりもしている。色々の郷土料理を作って喜ばれた。その時には、高校生にも手伝ってもらい、ふれあいができ、子どもたちから学ぶ事が沢山あり、よい経験ができた。</p>
E委員	<p>文化には大きさがあと思う。大・中・小あり、大きな事、例えば木之本地蔵さまや十一面観音さまなど外に知られているものは対外的に知らせていくことが大事。中くらいの物は長浜に向けて知らせてほしい。点である物を線でつないでもらえると、私たちも知ることができる。</p> <p>文化行事を子どもたちに広く知らせてあげると、素敵な行事があることがわかり保存につながる。</p>
D委員	<p>学校の統廃合にしても、各種データ等判断する資料をいただきたい。私は、判断するためにここへ来たと思っている。私は教育には金がいると思っている。</p>
H委員	<p>湖北町は合併問題で、もめたと言うか議論が活発な所です。これからは、今までの行政区から新しい行政との結びつきで新しい文化が生まれてくる。</p>
会長	<p>今後、地域の文化特性を残して行くことが大切。</p> <p>次回のテーマは「人権」とします。</p> <p>8月27日（木）午後1時30分から木之本町役場でお願ひします。</p>

【配付資料】

- ① 長浜市立校園の適正規模・適正配置について（答申） 平成20年3月13日
- ② 長浜市立校園の適正規模・適正配置についての概要
- ③ 高月町の新しい学校教育システム「高月学園」基本計画の概要

以上